

## 公開講演会

# 伝えることの大切さ、 伝わることのすばらしさ

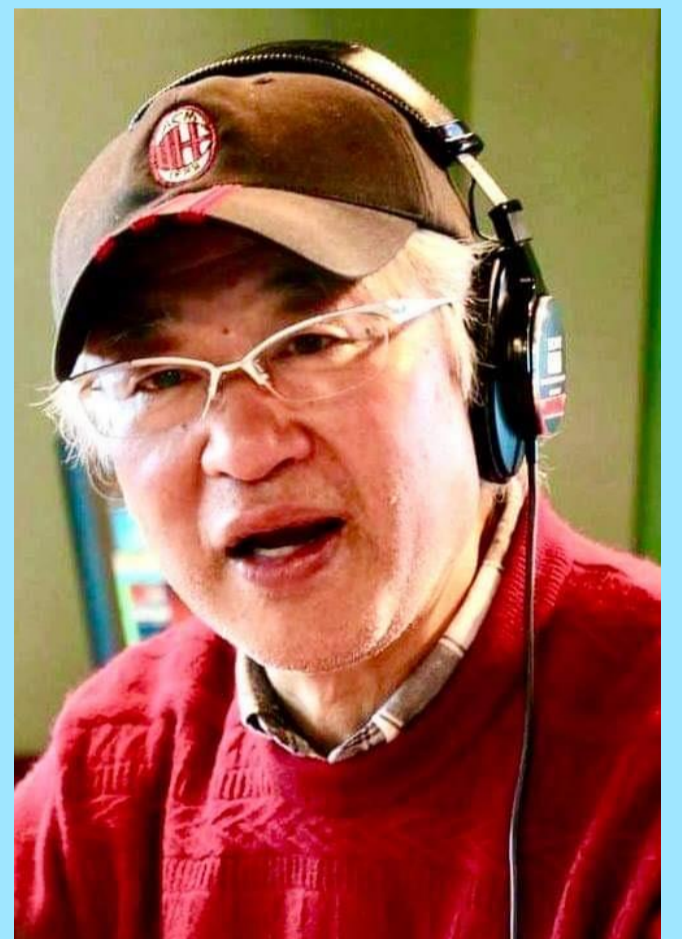
講師：大和田新氏&上野敬幸氏  
(フリーアナウンサー) (農家・福興浜団代表)

7月1日(月)5講時(16:40~18:10)予約不要  
同志社大学今出川キャンパス 弘風館K49教室



東日本大震災から13年が経過しました。

取材活動は、ともすれば被災者の心を傷つけるおそれもありますが、一方で人と人をつないだり、心を癒やすこともあります。長年福島の今を伝え続けてきた大和田さんと、菜の花迷路や花火で地元を励まし続けてきた上野さん。二人の対話を通して、メディアの可能性について、皆さんと考える機会を持ちたいと企画しました。



大和田新（おおわだ・あらた、写真右）

神奈川県横須賀市出身。69歳。中央大学法学部政治学科卒。2015年3月、38年間務めたラジオ福島を退社。2011年3月に発生した「東日本大震災」では、12時間マイクの前に立ち情報を伝えるとともに、県民を励まし続けた。東日本大震災から5年3ヶ月をまとめた著書「大和田ノート」（2016年8月出版）は、全国の地方新聞社が主催する「第7回ふるさと自費出版大賞」で優秀賞を受賞。また、2020年11月、「続・大和田ノート」を出版。担当ラジオ番組「大和田新のラヂオ長屋」（毎週日曜日・午前10時30分～午後1時）は、放送22年の長寿番組。

上野敬幸（うえの・たかゆき、写真左）

1973年1月11日生まれ。51歳。仕事は農業。自宅は、南相馬市原町区萱浜。

2011年3月11日に発生した東日本大震災で大切な家族4人（父・母・長女8歳・長男3歳）を津波で亡くしている。父と長男は、まだ見つかっていない。震災後「福興浜団」を立ち上げ、行方不明者の捜索を行ってきた。また、津波で77人が犠牲になった故郷萱浜に笑顔を取り戻そうと、春は「菜の花迷路」、夏は鎮魂と復興の為の花火を打ち上げてきた。震災の年の9月に生まれた次女・倅更生さんは、津波で亡くなった姉と兄の名前に生きるとつけて「さりい」と名付けられた。倅更生さんは4月から中学生となった。

主催：同志社大学 人文科学研究所 嘱託研究員（社外） 矢内真理子 (marikoyanai@gmail.com)  
本講演会は科研費（若手研究、19K13928）の助成を受けています。